令和7年度　飯塚市事務事業評価シート

令和　8　年　6　月　12　日　作成

事務事業名	老人クラブ推進事業	事務事業№	333 - 2

1．基本情報

担当部	担当課	担当係	作成者職名	作成者氏名	所属長職名	所属長氏名
福祉部	高齢者支援課	高齢総務係	主事	本庄　智哉	課長	林　寛侍

施策体系				
総合計画	政　策	3	健幸・子育て
	施　策	3	高齢者が安心して暮らせるまちづくり
	基本事業	3	生きがいをもって生活できる環境づくりの推進
その他の計画	個別計画		飯塚市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画［令和6～8年度］
根拠法令・条例・要綱等	老人福祉法第13条第2項・飯塚市シニアクラブ連合会活動推進事業費補助金交付要綱		

事業開始年度	－	事業終了年度	継続	事務事業類型	ソフト事業
実施手法	補助金・負担金交付	補助金等の支給	補助金等あり	実施計画期間	－

2．事務事業の概要及び目的（決算成果説明書と連動）

概要		シニアクラブの活動を支援することにより地域の高齢者の活発な活動を促すことを目的とする。
対象	働きかける相手・もの	単位クラブ及び飯塚市シニアクラブ連合会
手段	方法・働きかけ（活動指標）	補助金・負担金交付
意図	対象をどのようにしたいか（成果指標）	シニアクラブの活発な活動を促す

3．活動指標（決算成果説明書と連動）

指標名	単位	指標の説明（算式等）	前年度実績	本年度実績	次年度見込
補助金額	千円	高齢者社会活動推進等事業及び活動推進員設置事業補助金	8,799	8,106	8,106

4．成果指標（決算成果説明書と連動）

					前年度実績	本年度実績	次年度見込
指標	シニアクラブの会員数	単位	達成目標値				
		人	毎年度	目標値	2629	2357	2080
説明	シニアクラブに加入している会員数	方向性	達成目標年度	実　績	2357	2080	
		維持	毎年度				
指標	単位クラブの数	単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込
		クラブ	毎年度	目標値	83	77	70
説明	地区ごとに活動する単位クラブの数	方向性	達成目標年度	実　績	77	70	
		維持	毎年度				
指標		単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込
				目標値			
説明		方向性	達成目標年度	実　績			

5．事務事業実施にかかるコスト（決算成果説明書と連動）

経費区分	一般会計	経常経費	特別会計	－

予算科目・事業	会計	1	一般会計	款	3	民生費	項	1	社会福祉費	目	2	高齢者福祉費
	大	99	その他の高齢者福祉費	中	2	老人クラブ推進事業費				他	1	事業

投入人員（当該事務事業に対して１年間に投入した人員）	(R2以降)	前年度実績（千円）			本年度実績（千円）			増減理由（10%以上の場合）	次年度予算（千円）		
	正職員	0.15	人	1,222	0.15	人	1,274		0.15	人	1,274
	任期付職員(保育士)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	任期付職員(子ども家庭支援員)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	任期付職員(CW・水質)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	再任用フル	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	再任用短	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	会計年度 1級フル	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	会計年度 1級パート	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	会計年度 2級パート	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
人件費計（A）				1,222			1,274	－			1,274
事業費	直接事業費（B）			8,799			8,106				8,116
	総事業費（A＋B）			10,021			9,380				9,390
直接事業費のうちの主な歳出内訳	補助金			8,799			8,106				8,106
	研修講習会負担金			0			0				10
財源内訳	使用料・手数料（受益者負担分）			0			0				0
	国・県支出金			3,595			3,373				3,336
	市債			0			0				0
	一般財源			6,426			6,007				6,054
	その他（　　）										

6．事務事業の事後評価★

評価視点	評価	評価の理由、または認識している課題を記載
妥当性評価	高い	老人福祉法第13条第2項（地方公共団体は、老人の福祉を増進することを目的とする事業の振興を図るとともに、老人クラブその他当該事業を行う者に対して、適当な援助をするように努めなければならない。）の観点から必要である。また、市内の高齢者を対象としており、妥当である。
効率性評価	高い	補助金額は、単位クラブ数及び単位クラブの会員数から算出しており、会員数が増加しクラブ活動が活発になることが本事業の目的であるため、一定の補助が必要である。
有効性評価	高い	計画されていたシニアクラブの活動が活発に実施できたことで、地域の高齢者の生きがいづくり、健康づくりに貢献できた。また、高齢者の活発な活動を促すことを目的とすることから、次年度以降も必要である。

7．前年度評価時の計画と実績

前年度評価★		前年度記載した改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★	
評価区分	成果の方向性	次年度以降にコスト（人・予算等）を必要とせず、ただちに実施できる改善策	引き続き、シニアクラブ加入促進のための広報活動等、会員増につながる支援を行う。
一次評価	拡充		
	コストの方向性	次年度以降にコスト（人・予算等）を必要とし、中長期的に実施する改善策	－
	現状維持		

前年度改善策に対する実績　★　　※上記の改善策に対して今年度に実施できたこと、などを記入

市の広報、ホームページを活用して会員募集や活動内容について周知を行った。また、飯塚市シニアクラブ連合会が作成する広報誌を窓口に配架するほか、自治会連合会で加入促進等の案件を提出するなど、支援を行うことができた。

8．今年度評価における成果と課題（決算成果説明書と連動）★

【成果】　市の広報、ホームページを活用して会員募集や活動内容の周知を行った。また、飯塚市シニアクラブ連合会が作成する広報誌の窓口配架や自治会連合会で加入促進等の案件を提出するほか、情報管理課の取材等によるスポーツ大会やカラオケ大会の市報等掲載等により、周知を行うことができた。

【課題】　飯塚市シニアクラブ連合会においても会員増加に向けて様々な取り組みを行っているが、年々シニアクラブの会員数は減少傾向にある。引き続き飯塚市シニアクラブ連合会事務局長と調整を行いながら、市でできる支援を行っていく。

9.今後の事業の方向性と改善策

成果の方向性	【理由】
拡充	今後も老人福祉法第13条第2項の観点から活動を支援し、会員の増加を支援する。
コスト投入の方向性	【理由】
現状維持	補助金は、単位クラブや会員数により増減が予想されるが、広報活動については、市ホームページやSNS等、コストを必要としない方法で引き続き行っていく。

次年度以降の改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★

コスト（人・予算等）を必要とせず、ただちに実施できる改善策	引き続き、シニアクラブ加入促進のための広報活動等、会員増につながる支援を行う。
コスト（人・予算等）を必要とし、中長期的に実施する改善策	－

2次評価（最終評価）	成果の方向性	高齢者の社会参加促進や介護予防という本事業の目的・意義は引き続き重要であるものの、就労する高齢者の増加や価値観の多様化により、シニアクラブという形態そのものへのニーズは年々変化している。会員数も令和6年度から令和7年度にかけて約280人（10%以上）減少しており、65歳以上人口に対する加入率も約5%にとどまっている現状を踏まえると、従来と同水準の成果を求め続けることは現実的でない。限られた財源を効果的に振り向ける方向で成果の規模を見直していく必要があるため、「縮小」と評価する。
	縮小	
	コスト投入の方向性	「シニアクラブ活動推進員設置事業」は、県補助の対象外で市単独支出となっている。廃止は活動の停止を招くおそれがあるため即時の見直しは困難であるが、行政が実質的に団体事務局を担う状態については、全国的な潮流を踏まえ、そのあり方を引き続き検討する必要がある。また、本補助金全体としても、事業費の積み上げではなく定額補助となっており、会員数の減少傾向も踏まえ、事業費の実態に応じた積算方式への転換と併せて、コスト投入は「縮小」と評価する。ただし、担当課では新たな層の加入促進に取り組む意向であるため、その成果によっては将来的なコスト拡充を否定するものではない。
	縮小	